

福祉サービス事業 フリーダム創生  
就労継続支援B型（工房ナザレ）2020年事業計画書

従業員数

管理者（兼務） 1名 サービス管理責任者 1名  
職業指導員 2名 生活支援員 2名（うち パート 1名）

利用者数（定員 35名）

実利用者 知的障害者 22名 精神障害者 3名 合計 26名  
（知的障害者のうち 身体障害との重複 4名・視覚障害との重複 2名）

【運営目標】

利用者が自立した日常生活、又は社会生活を営むことができるよう、就労の機会を提供するとともに、生産活動その他の活動の機会を通じて、その知識及び能力の向上のために必要な訓練、その他の便宜を適切かつ効果的に行います。

また、地域との結び付きを重視し、利用者の所在する市町村や他の障害福祉サービス事業者、相談支援事業者、障害者支援施設等、及び保健医療サービス等を提供する者との密接な連携に努めます。

障害福祉サービスの事業などの人員、設備及び運営に関する基準に定める内容の他、その他の関係法令等を遵守し、事業を実施するものとします。（運営規定より）

- 1、利用者一人ひとりの個性を大切にしに大人として接します。
- 2、働くことの厳しさや、仕事をやり遂げた充実感を得るために、生産や販売に係わる環境を整え、作業の技術向上を目指します。
- 3、販売売り上げを伸ばし、利用者の賃金アップによる就労意欲の向上に努めます。
- 4、身体的虐待、ネグレクト、心理的虐待、性的虐待、経済的虐待を防ぎ適切な支援を行います。
- 5、感染症の予防対策を周知徹底していきます。

【サービス（支援）内容】

サービス担当者会議を行い、利用者の個別支援計画を立てます。その計画内容に基づいた情報をスタッフで共有し支援を行います。

支援内容としまして就労に必要な知識、能力向上のための訓練、生産活動（製菓製パン商品）その他の賃金アップにつながる作業（内職、絵画作成など）販売（街頭販売及び施設内定期販売等）、生活相談、健康管理、その他必要な介護、訓練、支援、相談、助言を行います。

### 【支援効果と課題】

- 1、利用者一人ひとりの個性を大切に、大人として接すること。  
効果：個人の個性を長所として捉え、一人の大人として接しお互いに言葉使いに気を付けることで良い関係が保てる。  
課題：個人を尊重することを常に心がけていないと個性を短所とみてしまうことがあり、言葉使いの乱れや、良い関係が保てなくなる恐れがあります。
- 2、働くことの厳しさや、仕事をやり遂げた充実感を持てるように、生産や販売に係わる環境を整え、作業の技術向上を支援すること。  
効果：利用者個人と話し合っって作った個別支援計画に基づいて作業や販売等を行うため、目標を立て能力の向上とともに達成感を持つことができます。  
課題：個人差があり、目標等が達成できない時に自信喪失に繋がる場合があるのでフォローする必要があります。
- 3、販売売り上げを伸ばし、利用者の賃金アップによる就労意欲の向上に努めること。  
効果：少しでも多く給料をもらえることでより良い生活を望めるため、働くことの意義を見出すことができます。  
課題：安定した販売の売り上げ収入の確保のため、定期販売場所の新規獲得や、新商品の開発の必要があります。
- 4、身体的虐待、ネグレクト、心理的虐待、性的虐待、経済的虐待を防ぎ適切な支援を行うこと。  
効果：虐待の防止により心身ともに安心した環境で働くことができる。  
課題：指導のための注意のつもりでも受け方によって虐待の発生する恐れがあります。
- 5、感染症の予防の周知徹底すること。  
効果：手洗い、うがいの徹底により細菌感染を予防することができる。  
課題：手洗いがしっかりとできるように一人ひとりに教えることが必要です。常に声掛け、指導していく必要があります。

### 【移設について】

以前より計画しておりました新設事業が4月中に完成し、5月より改めて事業が開始いたします。このことにより課題としていました作業スペースの確保や製造機器の老朽化に伴う製造効率が改善し、各階に作業を分けることで衛生面や作業効率等も改善されます。また、営業の種類を菓子製造業・飲食店営業とすることで、取り扱う食品も増え、多くの事に取り組めるようになります。

しかし、これまで1階だけで管理していたことが、建物全体（3階）で行うことにより、職員が分散されるため管理体制を整える必要があります。

これまでも課題としていました、利用者確保を強化し、各関係機関との連携、見学会や事業所説明会などに積極的に参加して当事業所のアピールをして行く所存です。